卒後教育に対する府県技師会の学術活動と問題点

○増田　詩織 ,石田　繁則 ,廣川　恵子 ,伊勢川　剛志 ,坂口　恭子 ,中島　康仁 ,前田　岳宏
吉本　茂 (大阪府臨床検査技師会学術部生物化学分析部門臨床化学検査分野)

医学・医療の発展によって、臨床検査は量的にも質的にも著しく拡大している。これに伴って、臨床検査技師の業務も多様化し、検査技師の知識・技能の質的向上が社会的にも要求されている。特に臨床化学検査分野は、自動化・システム化が進み、臨床検査以外の知識技能も要求されている。

臨床検査技師の卒後教育は、取り巻く社会の要望の多様化に加え、個人の目的や価値観，経験年数，ローテーション，職場や生活環境，余暇時間，経済的な面も影響して、卒後教育に対する考え方も複雑になりつつある。その中で認定技師資格の習得，学士・学位の修得，学会研究会活動などをはじめ、様々な分野で自己研鑽している。

大阪府臨床検査技師会学術部生物化学分析部門臨床化学検査分野は、日臨技生涯教育研修制度を基に、会員各位の卒後教育の支援を目的に活動している。活動内容は、講演会の企画運営，施設や会員からの問い合わせの対応，各種調査，研究活動である。平成１５年度における講演会は、脂質検査の標準化，蛋白分画，サンプリング，緊急・至急・診察前検査，糖尿病マーカー，心疾患マーカー，栄養アセスメント，腫瘍マーカーをテーマに、メーカー 15名，技師 9名，医師 4名を講師に招き、計８回（延べ　434名参加）開催した。開催終了後のアンケートにおいても，参加者の好評を得ている。しかし、現在８名の分野員で、企画・予算案の提示，会場，開催時間，内容の企画手配，講師の依頼，広報活動，講演会の運営，参加者登録，反省会，内容の吟味，会計報告，活動報告と事務的処理を行うことはかなりの負担となっている。

最近では、年々地区学会，全国学会，関連学会の参加者や発表数の減少 ,二級臨床検査士受験者数の減少など、技師の将来が懸念されている。今一度個人，施設，技師会において卒後教育のあり方を見直す時期にあると考える。府県技師会は、現状況を直接把握する組織でもあり、その責務は重要である。ネットの有効利用や草分け的な分科会やサークル的な活動も含め、今後の卒後教育は如何にあるべきかを考えていかなければならない。

連絡先： 072-366-0221 (内線 2181)